

市民との意見交換会

分野別意見交換会開催テーマ：観光及び中心市街地の活性化・食の安全と農業について
分野別意見交換会担当主体：予算決算委員会第3分科会
相手方：会津若松商工会議所女性会
開催日時：令和8年7月24日（金） 午前10時30分 ～ 午前11時58分
開催場所：会津若松市役所 議場・第2委員会室
出席者：別紙のとおり（傍聴議員3名）
会津若松商工会議所女性会より依頼のあった会津若松市議会議員との分野別意見交換会の開催について、予算決算委員会第3分科会が主体となり分野別意見交換会を開催し、以下のとおり意見交換を行った。 ○ テーマ (1) 観光及び中心市街地の活性化について (2) 食の安全と農業について ○ 会津若松商工会議所女性会から出された主な意見 (1) 観光及び中心市街地の活性化について ① 鶴ヶ城周辺等のバス停は屋根や日よけがなく、修学旅行生や高齢者が暑さや雨を避けにくいことから、観光客等が安全かつ快適に利用できる待合環境の整備を検討してほしい。 ② 観光地及び中心市街地の公衆トイレ環境（清潔さや使いやすさ、バリアフリーへの対応等）は、観光地の印象を左右するため、利用しやすいトイレの整備が必要である。また、イベント時には、オストメイトに対応したトイレカーを積極的に活用してほしい。 ③ 市内には菓子や食品等が数多くある一方、観光客がこれらの地元産品をまとめて購入できる場所が少なく、市外で製造された土産品も見受けられる。地元産品の販売拠点や商品化・製造を支援する仕組みを整え、観光消費を地域内の経済循環につなげる必要があるのではないか。 ④ 中心市街地の再整備地や未利用地について、駐車場としての利用だけでなく、地元産品を扱う商業機能、子育て支援機能及び市民の生活利便機能等を組み合わせ、観光客と市民の双方が利用できる拠点として整備することを検討してほしい。 ⑤ 中心市街地でイベントが開催されても、その名称、内容、開催場所等が市民に十分伝わっておらず、若い世代には新聞や印刷物だけでは情報が届きにくい。市のホームページ、SNS、QRコード等を活用し、当日のイベントを一元的に確認できる情報発信の仕組みを作る必要があるのではないか。

- ⑥ 同日に近接した場所で複数のイベントが開催されても、相互の案内や来場者の回遊につながっていない場合がある。イベント主催者、商店街、観光関係団体等の横の連携を強化するとともに、担い手不足に対応する運営支援を行い、個々の事業を単独で終わらず、中心市街地全体を面として捉えた中長期的な活性化策を進めてほしい。

(2) 食の安全と農業について

- ① 首都圏等においては、未だに一定の風評被害が発生しているため、風評被害の払拭とコシヒカリなどの会津産米のブランド化に向け、高付加価値米である AiZ'S-RiCE(アイズライス)の取組を進めているが、もっと生産基準や生産者の状況等を分かりやすく示すとともに、首都圏等への販売だけでなく、市民が購入又は試食できる機会を増やしてほしい。また、学校給食での活用や地元店舗での販売、ふるさと納税返礼品や他の農産品との組み合わせ等により、地域内外の販路を広げる必要があるのではないか。
- ② 特定のブランドだけでなく、高い技術や認証基準により良質な米や農産物を生産している農業者に対しても、認証取得、商品化及び販売促進等の支援を行ってほしい。また、米、野菜、果物、蜂蜜等の地域産品を組み合わせ、会津全体のブランドとして発信する必要があるのではないか。
- ③ 地元農産物の販売促進事業については、これまでの販売実績や事業効果、今後の取組等をもっと消費者に分かりやすく示してほしい。また、会津食の陣の取組については、登録飲食店だけでなく、学校給食や家庭、市内事業所の食堂等に地元の米、アスパラガス、トマト等を取り入れる仕組みを作ることにより、子どもを含む幅広い市民がもっと地域の農産物を食べる機会が増え、会津食の陣の事業効果が向上するのではないか。
- ④ 有機農業を推進するに当たり、オーガニックに関する市の取組と農家による農薬、除草剤及び化学肥料等の使用実態を把握し、取組の整合性を図る必要があるのではないか。また、農薬等の使用を減らす農家の負担を軽減するため、補助制度等による支援を充実させ、生産者と消費者が相互に理解する機会を設ける必要があるのではないか。
- ⑤ 公設地方卸売市場について、取扱事業者の減少や流通形態の変化により、今後の運営は厳しくなるのではないか。週末等に市民や観光客が利用できる機会を設けるなど、人が集まる仕組みを検討するとともに、市場の機能、運営方法及び将来的な施設の在り方について、早期に方向性を示す必要があるのではないか。
- ⑥ 形や大きさが規格に合わない農産物についても、品質や味に問題がなければ、週末に直売所での販売や軽トラック市等において安価に販売するなど、市民が購入しやすい価格で提供してほしい。また、農業を志す若者が安心して就農に挑戦できるよう、支援制度だけでなく、生産した農産物を安定的に販売できる販路や仕組みづくりが必要であり、そうした支援内容を分かりやすく示すべきではないか。

○ 総括

1 観光及び中心市街地の活性化については、バス停や公衆トイレ等の施設の改善に加え、地元産品の販売、イベント情報の一元化及び関係団体間の連携を進め、観光客の満足度向上と市民の生活利便性を両立させていく必要があると考える。

2 食の安全と農業については、農業者の所得向上を目指すとともに、市民に対し安心、安全な農産物を安定的に供給する取組が重要である。そのため農産物のブランド化については、首都圏等に対する情報発信や販路の開拓、拡大に加え、消費者である市民にも大いに食していただき、浸透させていく取組が不可欠である。そのため市民（消費者）による農産物や地域産品の消費拡大、安全性への理解を深める機会を創出しなければならないと考える。

また、公設地方卸売市場の今後の運営に不安を感じる声があるため、今後の流通・販売基盤の在り方について検証、検討を進めなければならない。

3 2つのテーマに共通して、個別の事業や関係団体の取組を点として実施するだけでなく、関係部署、事業者及び地域団体等の情報共有と連携を図り、事業の成果や利用者の反応を検証しながら、今後の市政運営及び議会活動に生かしていく必要がある。

会津若松市議会議長 様

令和8年9月10日

予算決算委員会第3分科会 委員長 大 竹 俊 哉

分野別意見交換会出席者

●会津若松商工会議所女性会（敬称略）

役 職	氏 名	役 職	氏 名
会 長	上 野 和 枝	担当副会長	馬 場 由紀子
担当副委員長	斎 藤 志登美	担当委員長	増 田 美起子
	大須賀 睦 美	担当副委員長	岡 田 友 子
	岸 敏 恵		木 村 悦 子
	村 崎 紀 子		松 本 彩 子
	佐 藤 恵 美		三 留 由 香
	宮 澤 洋 子		星 京 子
	鈴 木 町 子		上 嶋 啓 子
	二 瓶 千 尋		
	吉 川 恵美子		

●参加議員

役職等	氏 名	役 職	氏 名
議 長	清 川 雅 史	委 員	小 畑 匠
委 員 長	大 竹 俊 哉	委 員	長谷川 純 一
副委員長	渡 部 認	傍聴議員	古 川 雄 一
委 員	大 山 享 子	傍聴議員	内 海 基
委 員	吉 田 恵 三	傍聴議員	奥 脇 康 夫